

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1032号
2007年4月15日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

4月の代祷・信施奉獻先
エルサレム教区のため 在日外国人
人権問題のため 柏聖アンデ
シ教会のため 諸神学校のため
聖信受領

4月1日 聖ルカ礼拝堂で
今井和子 今井陽子(聖ルカ
礼拝堂) 中島未知(聖二)

4月1日 主教座聖堂で
伊東乾 林周子(聖アンデ
レ) 増田将尚(諸聖徒礼拝堂)
萩原貴子(聖パトリック)

4月18日(水) 10時半
教役者レクイエム

説教 主教座聖堂
司祭米村路三
主教時田誠 司祭中島修
司祭山口信太郎 主教上田

今週・来週の予定

4月15日~28日

- 15(日) 復活節第2主日
主教巡回 聖教主教会
- 16(月) 財政委員会
幼稚園委員会
- 17(火) 教役者会幹事会
礼拝音楽委員会
教財務サービス委員会
- 18(水) 教役者レクイエム(主教座)
- 20(金) 主教座聖堂活動委員会
フェスティバル実行委員会
信徒講座=教会の歴史
- 22(日) 復活節第3主日
主教巡回 聖マルコ教会
教役者会歓迎会(聖バルナバ)
- 24(火) 銀座朝祷会
聖職養成委員会
- 25(水) 山手G牧師協議会(聖マーガレット)
- 26(木) 正義と平和協議会運営委員会
- 27(金) 主事会議
教区企画室
信仰と生活委員会

- 一良 主教元田作之進 伝道
師ミス・ボイド 主教ジョ
ン・マキム 司祭大藤鏑三郎
司祭小林彦五郎 執事八木
立三 主教大久保直彦 伝道
師鈴木しげ子 司祭大野敏之
伝道師音藤伊佐子 司祭落
合吉之助 司祭大木弘行
- とこしえの平安
3月15日 浅井 慎吾(79)
3月30日 尾嶋めぐみ(55)
3月30日 妻倉 多恵(95)
八王子復活
聖アンデレ

掲載記事の転用可(事前連絡要)

聖路加国際病院で、チャプレンの仕事
を手伝って下さっている司祭が、「私
はあまり役にたたないのですが」と
仰ったので、「いや、ほんとに」と相槌を
うつたら、「言ったなあ、ほんの謙遜の
つもりで言ったの
に」と立腹。病
院チャプレンとい
うのは、実際、役
にたっているのか
どうかあやしい
が、同時にそこに
こそ仕事の醍醐味がある、というよう
な話を、その後、一緒にした次第。

役にたたない 病院チャプレン

司祭 上田 憲明

命に関わるような病気をしたり、
ひよっとしたら二度と立ち上がれないか
もしれないというような怪我をした患者
さんの所に訪ねてくる人は、皆、役にた
つ人ばかりである。医師や看護師だけ
はなく、友達も親戚も、いや家族でさえ

も何か役にたちたいと近づいてくる。
一方、患者さんは、自分ではもはや何の役
にもたたない存在になってしまったこ
とを感じている。まわりはそんなこと
はないですよ」とは言ってくれるもの
の、患者さんが聞き返す
と誰もちゃんと答えて
くれない。

役に立つか立たない
かは、この世でうまく生
きていくための大事な
物差しではあるが、唯一
の物差しではない。病院の中、無駄とも
言える大きな礼拝堂に、「こういう場所
があつてホツとします」ノートに沢山
の人がそう書いていく。役に立たない
とも言えるチャプレンに会う人もそう
感じてくれればと願っている。砂粒
に、星屑に、目を向けさせる神様に。
(聖路加国際病院チャプレン)

信仰と生活委員会報告

(3月29日)

* 教区主教・宣教主事報告、各教会グループ協議会活動報告。
 * 青年活動支援部報告(九州・S C M現場研修参加者への支援)。
 * 各種信徒講座開催について進捗などの報告・確認。
 * 銀座朝祷会、西新の会(西武新宿沿線での集会活動) 教区会の折、協力要請発言)への支援協力について協議。
 * 大韓聖公会ソウル教区への訪問企画(10月14日、17日)について参加者募集、準備会開催など日程やプログラムの調整。
 * 憲法9条の学びの振り返り、黙想会(戦争と平和)の開催について、それぞれ継続協議。

信仰と生活委員会主催信徒

講座「教会改革の足跡」第16世紀、宗教改革へ1」 4月20日(金) 19時、教区会館3F、講師・竹内謙太郎司祭。参加費500円。7月まで毎月、第3金曜日夜の開催。照会などは教区事務所・宣教主事宛。

COA(教区内青年有志による中高生世代支援団体)
 4月から新年度に入り、毎月第3主日(4月は15日)には浅草日曜給食活動ボランティアに出向く継続プログラムのほか、新青年スタッフ(18歳以上・やる気のある人・高校生不可)を募集している。4月末の連休を利用した説明会を企画中。代表者・麻田杏(練馬聖ガブリエル教会気付)。

《今、この教会では…》

八王子復活教会

私達の教会は今、教会会計が厳しい状況にある。その理由は3年前に完成した聖堂・ホールの維持管理費がこれほどかかるとは予測できずに、教区・管区から3千万円の建築資金を借り入れ返済計画を立てたことにある。完成後暫くは建築献金が若干残っており、会計様式が複雑なこともあって収支がどの程度厳しくなるか認識されていなかった。今年度は全面的な支出削減策を盛り込んだものの大幅な赤字予算となり、併設幼稚園への援助金も減額せざるを得なかった。会計担当として教区費分担金の負担の重さを噛みしめるこの頃である。(佐々木直久)

【学びと働きから】39

教区会審議の課題を追って
 … 3月に開かれた教区会で、常置委員会報告と関連して質疑が交わされた幾つかの課題のなかから2点、答弁や説明に立った常置委員の立場から解説をいただいた。

家族を持つ聖職候補生に対する支援制度の運用指針
 方策がスタートした。この制度の趣旨は、運用指針の前文に掲げられているように聖職を志し、神学校への就学を希望していながら、家族を扶養しなければならぬ事由から就学が困難である者に対する支援制度で、教区主教が必要と認めたとときに主教資金の予算から支給するも

の。そして、この制度は基本的に運用指針に則して教区主教の裁量で運用されるものとし、この運用指針を周知するため、教役者に近々提示されることとなっている。

他教区との交流プログラム
 一 昨年春、第100(定期)

教区会で決議された他教区との交流について、当初は今回の教区会で各教会、各教会グループから交流活動について報告がなされることを予測していたが、未だ具体化できていない教会が大半である状況を踏まえ、交流報告を求めることはなされなかった。この運動の舵取りは常置委員会に委嘱されているので、今年度は各教会の取り組みについて状況を把握して、適切

な対応をしていく必要があると考えている。

ただ、人事協力の面で、今春、神学院を卒業した当教区聖職候補生が一人、東北教区へ派遣されることとなったことを受け、加藤博道東北教区主教様が今教区会へ顔出しされて、その派遣協力への感謝と共に、3、4の複数の東京教区の教会から東北教区の教会に交流の申し入れがあり、交流が始まったとの報告があった。異なる状況の中にある他教区の教会同士がお互いを知り合い、協力していくことは今後の日本の宣教にとって重要な事柄であると思える。

常置委員 山田 益男
 (聖ミカエル教会信徒)